

## (2) 哺乳類

哺乳類 001	食肉目 (ネコ目) イタチ科	岡崎市 絶滅
<b>カワウソ <i>Lutra lutra</i> (Linnaeus)</b>		

### 【選定理由】

国内では 1979 年の高知県での記録以降は生息が確認されていない。愛知県内では 1923 年までに絶滅状態になっていたと考えられていた。岡崎市では、1920～1930 年頃に旧額田町域宮崎 (旧宮崎村) の黒谷で捕獲された、という記述が最後のものである (宮崎村史編集委員会, 1960)。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	絶滅

### 【形態】

頭胴長 645～820mm、尾長 390～489mm、後足長 117.5～134.0mm、耳介長 21～27mm、頭骨基底全長 105.8～119.2mm。水生に適応しており、頑丈で細長く円筒状の体をしている。短い前肢と後肢の指趾には水かきがある。背面の毛色は黄褐色で、腹面は淡灰褐色をしている。尾は基部が太く、胴からなめらかに移行しているのでその境界部は不明瞭である。頭蓋は扁平で吻が短い。鼓室胞は低くて三角形をしている。歯式は I3/3, C1/1, P4/3, M1/2=36 (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【分布の概要】

ヨーロッパからアジアにかけてのユーラシア大陸とアフリカ大陸北端の河川沿いに広く分布する (米田, 2005 ; Sasaki, 2010)。国内では、北海道、本州、四国、九州、対馬に生息していたが、本州最後の記録は 1954 年で、北海道では 1955 年の捕獲が最後の記録である (Sasaki, 2010)。四国での最後の記録は、香川県では 1944 年、愛媛県では 1975 年、高知県では 1979 年とされる (Sasaki, 2010)。岡崎市を含め、国内ならびに愛知県内で絶滅し、現在は分布がみられない。

### 【生息地の環境／生態的特性】

河川の中下流部から沿岸部に生息し、水中で魚類、甲殻類を捕食している (米田, 2005)。

### 【過去の生息状況／絶滅の要因】

県内の八王子貝塚 (西尾市) と伊川津貝塚 (田原市) (ともに縄文時代: 宮尾ほか, 1990 ; 伊川津遺跡発掘調査団, 1988)、朝日西遺跡 (清洲市) (弥生時代: 愛知県埋蔵文化財センター, 1992) で出土している。1737 年頃の丹羽郡と海西郡 (現海部郡の一部) (宮尾, 1985)、1887 年頃の篠島 (南知多町) (出村, 1921)、1913 年前後の新城市長篠に (長篠郷土研究会, 1958) 生息しており (愛知県, 2009)、『張州雑誌』(1781～1789) にもカワウソの図がある。豊川市でも 1945 年以前の文献には生息していた記述がある (豊川市役所, 1973)。岡崎市では、旧額田町域の宮崎 (旧宮崎村) で「(1960 年から) 2～30 年前黒谷で猟師がとった」という記録がある (宮崎村史編集委員会, 1960)。禁猟になる 1928 年までの乱獲と河川環境の悪化で絶滅したと考えられる (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【保全上の留意点】

乱獲の原因はカワウソの良質な毛皮が高値で取引されたことであるが、さらに水系の汚染や護岸工事といった生息環境の破壊がカワウソを絶滅させたという (宮尾, 1985)。国内でカワウソが絶滅していることもあり、岡崎市でも自然状態での生息回復はのぞめない。

### 【特記事項】

日本哺乳類学会では絶滅危惧種とされる (佐々木, 1997)。種の保存法での国際希少野生動植物種。文化財保護法による特別天然記念物。1979 年以来目撃例がないことから、2012 年に環境省指定の絶滅種とされた。岡崎市の西南に隣接し、矢作川の流域にある八王子貝塚 (縄文中期～後期) からカワウソの遺存骨が出土している (宮尾ほか, 1990)。

### 【引用文献】

- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 愛知県埋蔵文化財センター, 1992. 朝日西遺跡, 318pp. 愛知県埋蔵文化財センター, 愛知県海部郡弥富町.
- 伊川津遺跡発掘調査団 (編), 1988. 渥美町埋蔵文化財調査報告書 4. 渥美町教育委員会, 愛知県渥美町.
- 出村 銀, 1921. 篠島史蹟, 151pp. 博信社, 名古屋市.
- 宮尾嶽雄, 1985. 哺乳類. 西春町史資料編 2, pp.221-259. 西春町史編集委員会, 西春町役場.
- 宮尾嶽雄・酒井英一・子安和弘・蜂矢喜一郎, 1990. 愛知県西尾市八王子貝塚出土の陸上哺乳類遺存体, pp.32. 西尾市教育委員会, 愛知県西尾市.
- 宮崎村史編集委員会, 1960. 野生のけもの. 宮崎村史, pp.514-519. 宮崎村史編集委員会, 額田町.
- 長篠郷土研究会, 1958. 特殊な動物. 長篠村史, pp.68-70. 長篠郷土研究会, 愛知県鳳来町.
- 佐々木浩, 1997. イタチ科 Mustelidae. レッドデータ日本の哺乳類, pp.100-107. 文一総合出版, 東京.
- Sasaki, H. 2010. *Lutra lutra* (Linnaeus, 1758). The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.254-255. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.
- 豊川市役所, 1973. 豊川市史, 852pp. 愛知県豊川市, 豊川市.
- 米田正明, 2005. カワウソ. 日本の哺乳類[改訂版], pp.88. 東海大学出版会, 秦野市.

### 【関連文献】

宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

(執筆者 子安和弘)

哺乳類 002	食肉目 (ネコ目) クマ科	岡崎市 絶滅
<b>ツキノワグマ <i>Ursus thibetanus</i> G.[Baron] Cuvier</b>		

**【選定理由】**

かつては本州、四国、九州に広く分布していたが、環境省は2012年に九州の個体群を絶滅と認定し、現在の分布は本州と四国に限られる。四国と本州の下北半島、紀伊半島、東中国地域、西中国地域の個体群は環境省の絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている。県内では近年移住個体の捕獲や目撃が多いものの定住個体はないと考えられる。岡崎市では近年の生息記録はないが、岡崎市の南西に隣接する西尾市八王子貝塚から縄文時代の生息が確認されており、今後の生息域の拡大を考慮して絶滅種に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I A類
環境省	地域個体群

**【形態】**

体重 55.0~187.5kg、頭胴長 1200~1630mm、尾長 80mm 前後、後足長 (爪を含む) 210mm 前後、耳介長 90mm 前後、頭骨最大長 189.0~265.2mm (阿部, 2000)。ヒグマより小型で、全身黒色の毛で被われているが、前胸部に白色の月の輪の模様がある。頭蓋では脳頭蓋部が比較的大きく、吻は短い。眼窩前下端から頬歯列に垂線をおろした場合、この線は第1大臼歯の後部を通る (阿部, 2000)。乳頭式は 2+0+1=6。歯式は I3/3, C1/1, P4/4, M2/3=42 (愛知県環境調査センター, 2009)。

**【分布の概要】**

ヒマラヤの南側山麓部から東南アジア北部、中国東北部、ロシア南東部、台湾、海南島、日本に分布する (米田, 2005)。国内では、本州、四国、九州に生息していたが、九州では絶滅した可能性が高く、四国でも絶滅寸前の状態である (阿部, 2000)。県内では、豊根村下黒川 (1944年)、東栄町足込 (1963年)、豊田市足助地域 (1945年頃)、豊田市川面町[旧足助町] (1977年) での記録がある (宮尾ほか, 1984)。2001年に豊田市足助地域と旭地域で別個体の目撃例 (2件3個体) があり、2002年5月7日豊田市稲橋[旧稲武町]で再発見されてからは毎年生息情報が寄せられている。

**【生息地の環境／生態的特性】**

本州中部地方ではブナ林に代表される冷温帯落葉広葉樹林が主要な生息地環境であるが、県内では面ノ木 (豊田市稲武地域)、段戸裏谷 (設楽町) などごく限られた面積しか残されていない。越冬場所としてブナなど大木の樹洞や岩穴などを利用する。冬眠中に1~2頭の仔を出産 (愛知県, 2009)。

**【過去の生息状況／絶滅の要因】**

1963年~1977年の間に4件5頭の捕獲記録・死体発見記録があったが (宮尾ほか, 1984)、1970年代に報告された冬眠例、目撃談、目撃情報 (愛知県自然保護課, 1979) 以降、2001年まで生息記録が絶えていた (愛知県環境調査センター, 2009)。近年、岡崎市の北東部に位置する市町村での目撃と捕獲例が多発しているが岡崎市では確認されていない。ただし、縄文時代中期から後期にかけての西尾市八王子貝塚からツキノワグマの大腿骨が出土しているため (宮尾ほか, 1990)、岡崎市における過去の分布は確実である。絶滅の要因は縄文時代以降の森林の伐採や狩猟圧と考えられる。

**【保全上の留意点】**

2001年以降、県内での「生息」が確認されている。これは繁殖をともなう安定した個体群の存在とは認められないが、ツキノワグマ個体群が復活する「前兆」といえるかもしれない。岡崎市では現時点での侵入や生息が認められず、ツキノワグマが人と遭遇した際の事故の可能性について関心が低いが、将来起きうる事故を防ぐためには、クマの出現を前提とした対策の準備が必要である。

**【特記事項】**

種の保存法による国際希少野生動植物種。1963年に東栄町足込で捕獲されたツキノワグマの標本は田口中学校に保管されており (原田, 1968)、1977年に豊田市足助地域川面で死体が発見された個体の剥製標本は愛知学院大学歯科資料展示室で保管・展示されている (愛知県環境調査センター, 2009)。2013年6月に岡崎市との境界部である豊田市蘭町 (旧下山村) で確実な目撃例が得られた。

**【引用文献】**

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター (編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 愛知県農地林務部自然保護課, 1979. 自然環境保全基礎調査, 動物分布. 緑と光, 17: 1-7.  
 原田猪津夫, 1968. 哺乳類. 北設楽郡史原始~中世, pp.54-56.  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 宮尾嶽雄・酒井英一・子安和弘・蜂矢喜一郎, 1990. 愛知県西尾市八王子貝塚出土の陸上哺乳類遺存体, pp.32. 西尾市教育委員会, 愛知県西尾市.  
 米田正明, 2005. ツキノワグマ. 日本の哺乳類[改訂版], pp.78. 東海大学出版会, 秦野市.

**【関連文献】**

- Yamazaki, K. 2010. *Ursus thibetanus* G. Cuvier, 1823. The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.235-237. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.

(執筆者 子安和弘)

哺乳類 003	食肉目 (ネコ目) イヌ科	岡崎市 絶滅
<b>オオカミ <i>Canis lupus</i> Linnaeus</b>		

### 【選定理由】

かつて北海道、本州、四国、九州に生息していたが、北海道では1800年代末に、本州では1905年奈良県での捕獲記録を最後に絶滅した(阿部, 2000)。岡崎市近隣の県内では1600年代末から1700年代中期に名古屋市内外に出没したことが『鸚鵡籠中記』に述べられており(宮尾ほか, 1984a; 千葉, 1995; 朝日, 1995)、比較的最近まで生息していたことは確かであるが1900年代以降はまったく記録がない。岡崎市近隣の縄文~弥生時代遺跡からの出土例や歴史時代の広範な分布とオオカミの移動力の大きさから絶滅種に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅
環境省	絶滅

### 【形態】

頭胴長 950~1290mm、尾長 270~400mm、後足長 245~250mm、耳介長 80~115mm、頭骨最大長 186.0~269.5mm (阿部, 2000)。イヌに似ているが体が細く、体毛が長い。四肢が長く、趾行性。前足に5指、後足に4指をもつが前足の第1指(母指)は接地しない。陰茎骨をもつ。頭骨形態では吻が非常に細長く、前頭部が相対的に低くなっているために横から見ると鼻骨前端から前頭部にかけての凹みが浅い(阿部, 2000)。乳頭式は1+2+1=8。歯式はI3/3, C1/1, P4/4, M2/3=42 (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【分布の概要】

ユーラシア大陸と北米大陸に分布する。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布していたが、北海道では1800年代末に、本州では1905年の記録(奈良県)を最後に絶滅した。したがって、現在では岡崎市を含む日本国内と愛知県内にも分布はみられない。

### 【生息地の環境/生態的特性】

大陸に現存しているオオカミと同様に、広範な環境条件に生息し、シカ、ノウサギ、ノネズミ類を集団で捕食していたと考えられる(米田, 2005)。

### 【過去の生息状況/絶滅の要因】

国内および県内で絶滅している。愛知県内でオオカミの出土した遺跡は、縄文時代の伊川津貝塚(田原市渥美地域: 伊川津遺跡発掘調査団, 1988)と平井遺跡(宝飯郡小坂井町: 酒詰, 1961)、弥生時代の朝日西遺跡(清洲市: 愛知県埋蔵文化財センター, 1992)。歴史時代になってからは、1600年代末から1700年代(名古屋市北区、春日井市、小牧市、犬山市、丹羽郡大口町、扶桑町など: 新家, 2005)、明治の中頃まで(北設楽郡設楽町: 伊藤, 1956)、尾張地域『張州雑誌』(1781~1789)といった記録がある。本州では農耕地の拡大にともなう大型草食獣の減少のほか、疾病の流行もオオカミの減少の要因と考えられる。絶滅の背景として、後期更新世以降の温暖化、島嶼化と開発の進行があり、体の小型化と絶滅に関係があるといわれている(宮尾ほか, 1984b)。

### 【保全上の留意点】

岡崎市内を含めて愛知県内と日本国内での絶滅は確実であり、オオカミの生存を可能にする広大な森林(天然林)などの環境も残されていない。

### 【特記事項】

種の保存法による国際希少野生動物種。下顎第1大臼歯の長さ(歯冠近遠心径)は先史時代までは明らかに大型のイヌよりも大きい、歴史時代になると重なりがみられる(宮尾ほか, 1984b)。

### 【引用文献】

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
朝日重章, 1995. 摘録鸚鵡籠中記(下) 元禄武士の日記. 374pp. 岩波書店, 東京.  
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
愛知県埋蔵文化財センター, 1992. 朝日西遺跡, 318pp. 愛知県埋蔵文化財センター, 愛知県海部郡弥富町.  
千葉徳治, 1995. オオカミはなぜ消えたか. 279pp. 新人物往来社, 東京.  
伊川津遺跡発掘調査団(編), 1988. 渥美町埋蔵文化財調査報告書4. 渥美町教育委員会, 愛知県渥美町.  
伊藤正松, 1956. 山犬・カシヤ・河童・洲の主. 野帳(豊橋市公民館三階瓜郷遺跡調査会), 1: 9-11.  
宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984a. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
宮尾嶽雄・西沢寿晃・花村 肇・子安和弘, 1984b. 早期縄文時代長野県栃原原岩蔭遺跡出土の哺乳動物. 第7報オオカミの骨と歯. 成長, 23(2): 40-55.  
新家猷佑, 2005. 狼、暴れ候: 日記にみる尾張藩事件簿. 127pp. 新風社, 東京.  
酒詰仲男, 1961. 日本縄文石器時代食料総説. 土曜会, 京都.  
米田正明, 2005. オオカミ. 日本の哺乳類[改訂版], pp.75. 東海大学出版会, 秦野市.

### 【関連文献】

Endo, H. 2010. *Canis lupus* Linnaeus, 1758. The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.218-219. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.

(執筆 子安和弘)

哺乳類 004	齧歯 (ネズミ) 目 ネズミ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>スミスネズミ <i>Myodes smithii</i> (Thomas)</b>		

### 【選定理由】

日本固有種で、本州の南方と四国、九州、隠岐島後に生息するが、県内では三河地域と尾張地域のいくつかの市町村で生息が認められるにすぎない。森林とその周辺に生息し、山地での道路建設やダムの造成によって個体群が分断されやすく、縮小・孤立化した小個体群が絶滅する可能性がある。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

### 【形態】

体重 20~35g、頭胴長 75~115mm、尾長 33~55mm、後足長 16.0~18.5mm、耳介長 10.0~13.5mm、頭骨最大長 22.0~25.7mm (阿部, 2000)。背面の毛色は赤褐色から黄褐色まで変異があり、腹面は黄褐色。体の大きさは南方のものが北方のものより大きくなる傾向がある。短い尾を持ち、尾率は通常 40~60%の範囲にある。頭蓋はヤチネズミより小さく、鼓室胞はやや小さく扁平。大臼歯は生涯無根。乳頭式は 0+0+2=4 または 1+0+2=6。歯式は I1/1, C0/0, P0/0, M3/3=16 (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【分布の概要】

日本固有種で、新潟・福島県以南の本州、四国、九州、隠岐島後に分布する。県内では、豊根村[旧豊根村、富山地域]、設楽町[旧設楽町、津具地域]、豊田市[旧豊田市、稲武地域、旭地域、小原地域、下山地域]、新城市[鳳来地域、作手地域]、豊川市一宮町、瀬戸市(以上愛知県環境調査センター, 2009)、岡崎市の旧岡崎市域 (伊藤, 1985) と旧額田町域 (愛知県環境調査センター, 2009) で生息記録がある。

### 【生息地の環境／生態的特性】

低地から高山までの森林およびその周辺にすみ、落葉・腐食層の厚い湿潤な環境に多い (阿部, 2000)。草本類の葉や茎に加え、種子などを採食する。繁殖期は地域によって異なり、南方では春と秋の 2 山型、北方では夏の 1 山型となっており、1 回に 1~6 仔、通常 2~3 仔を産む (金子, 1992a ; 宮尾, 1967)。天然林に多く、人工造林地にはほとんど生息しない (金子, 1992b)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県内の分布は大半が三河地域で、尾張地域では瀬戸市にのみ生息が認められる。三河地域の個体群は連続的なものが多いと考えられるが、瀬戸市の個体群が三河地域の個体群と連続的な分布をしているか現時点では不明である。減少の要因としては、道路造成、ダム湖の造成、伐採や開発にともなう森林面積の減少などがあげられる。

### 【保全上の留意点】

沖積平野や主要国道はスミスネズミの分布障壁となる (金子, 1992b) から、個体群分断化のおそれのある地域での森林面積の減少や分断をともなう開発は個体群の分断と個体数の縮小をまねくおそれがある。個体群の分断をもたらしさないような回廊の設置や、失われる可能性のある分布面積に匹敵する代替環境造成として潜在植生の復元などをはかる必要がある。

### 【特記事項】

日本哺乳類学会では危急種とされ、なかでも「愛知県尾張」の個体群は「保護すべき地域個体群」のひとつに指定されている (村上・金子, 1997)。

### 【引用文献】

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 伊藤安彦, 1985. 岡崎市のほ乳類. 新編岡崎市史自然 14, pp.690-695. 新編岡崎市史編さん委員会, 岡崎.  
 金子之史, 1992a. 日本の哺乳類 (17)スミスネズミ. 哺乳類科学, 32: 39-54.  
 金子之史, 1992b. 四国における野ネズミ 3 種の地理的分布. 日本生物地理学会会報, 47: 127-141.  
 宮尾嶽雄, 1967. 日本列島における小哺乳類の地理的変異に関する研究 I. スミスネズミの地理的変異第 2 報. 後足長, 尾長, 仙尾椎骨数および繁殖活動の地理的変異. 成長, 6: 7-18.  
 村上興正・金子之史, 1997. ネズミ亜目 MYOMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.75-90. 文一総合出版, 東京.

### 【関連文献】

- 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

(執筆者 子安和弘・小鹿登美)

哺乳類 005	齧歯 (ネズミ) 目 ヤマネ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>ヤマネ <i>Glirulus japonicus</i> (Schinz)</b>		

### 【選定理由】

日本固有種で、国内でも本州、四国、九州、隠岐島後の限られた地域にしか生息しない。各地域個体群は分断化・孤立化しており、県内の小個体群同士および隣接県の個体群が連続的な分布をしている証拠はなく、個体群の孤立化と生活環境の悪化により個体数が減少していると考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

### 【形態】

体重 12.7~23.0g、頭胴長 59~84mm、尾長 33~54mm、後足長 15~17mm、耳介長 6~9mm、頭骨最大長 23.5~24.6mm (阿部, 2000)。四肢が短く体型はハムスターに似ているがリスに似た扁平な尾をもつ。淡褐色をした背面の正中には黒い線があり、腹面の色はやや淡い。夏毛では背面の毛色は灰色から褐色まで種々の中間型を介在させて変異に富む (今泉, 1960)。耳介は短くほとんど体毛に埋まる。盲腸をもたない。頭骨では吻は長いものの切歯孔は小さい。乳頭式は 2+1+1=8 または 2+0+1=6。歯式は I1/1, C0/0, P1/1, M3/3=20 (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【分布の概要】

日本固有種で、本州、四国、九州、隠岐島後に分布する。県内では、豊根村、設楽町[旧設楽町、津具地域]、豊田市[稲武地域、小原地域、旭地域、下山地域]、岡崎市旧額田町域の南大須町と夏山町で生息記録がある (宮尾ほか, 1984; 愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

亜高山帯以下の山地天然林にすみ、樹上性が強く、夜行性で、樹洞や樹上に苔や樹皮などで巣をつくる (阿部, 2000)。冬期には完全な冬眠をおこなう。冬眠場所は樹洞の巣や樹皮の割れ目、落葉や土中などである。果実、種子、昆虫などをたべる。春から秋にかけて繁殖し、2~7 仔を産む。妊娠期間は 3 週間。小鳥のための巣箱にはいることが知られているが、この中で冬眠はしない。ゴルフ場内の残地林の巣箱を利用した例も知られている (中島, 2001 参照)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

全国のヤマネの分布状況をまとめた中島 (2001) によると、愛知県のヤマネは長野県最南端の小個体群とわずかにつながるのみで、南アルプスの個体群から孤立している可能性がある。愛知県下の小個体群はそれぞれが孤立化する傾向が指摘されている (愛知県環境調査センター, 2009)。岡崎市でも、道路の開発や造成などによる小個体群の分断と森林伐採が生息環境の悪化と分布面積の減少をもたらし、個体数を減少させていると考えられる。

### 【保全上の留意点】

ヤマネの分布域では生息個体群を分断する道路・ダム湖の造成や森林の無秩序な伐採・開発を避けるべきで、やむを得ない場合にも個体群の分断化の影響を減らす回廊の設置 (湊, 2000) や、失われる分布面積に匹敵する代替環境造成として潜在植生の復元などをはかる必要がある。

### 【特記事項】

毛色には地理的変異があり、山梨産は灰色、和歌山産は茶色、長崎産は濃い茶色になっている (湊, 2000)。また、西日本産 (福井県、和歌山県、高知県) と中部産 (山梨県、長野県) ではヤマネの塩基配列が大きく異なり、200 万年程度の分岐年代に相当するという (Suzuki et al., 1997)。日本哺乳類学会では危急種 (村上・金子, 1997)、文化財保護法による天然記念物 (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【引用文献】

- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 湊 秋作, 2000. ヤマネって知ってる? ヤマネおもしろ観察記, 126pp. 築地書館, 東京.
- 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
- 村上興正・金子之史, 1997. ネズミ亜目 MYOMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.75-90. 文一総合出版, 東京.
- 中島福男, 2001. 日本のヤマネ, 169pp. 信濃毎日新聞社, 長野.
- Suzuki, H., S. Minato, S. Sakurai, K. Tsuchiya, I.M. Fokin, 1997. Zoological Science, 14: 167-173.

### 【関連文献】

- Iwasa, M.A. 2010. *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845). The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.142-143. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.
- 中島福男, 2006. 日本のヤマネ, 改訂版, 179pp. 信濃毎日新聞社, 長野.

(執筆者 子安和弘・小鹿登美)

哺乳類 006	齧歯(ネズミ)目 ネズミ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
<b>ハタネズミ <i>Microtus montebelli</i> (Milne-Edwards)</b>		

**【選定理由】**

本州、九州、佐渡島、能登島にのみ生息する日本固有種であるが、近年の市街化にともなってその生息環境が急速に失われつつあり、生息域と生息数の減少がいちじるしい。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【形態】**

体重22~62g、頭胴長95~136mm、尾長29~50mm、後足長16.5~20.4mm、耳介長10.0~12.2mm、頭骨最大長25.5~29.2mm(阿部, 2000)。背面の毛色は黄褐色から灰黄褐色まで変異があり、腹面は灰白色。後足底の蹠球数は5個と6個の場合があり、前者が多い。体の大きさは南方のものが北方のものより大型化する傾向がある。骨口蓋の後端にはヤチネズミやスミスネズミにはない窪みがある。大白歯は生涯無根。乳頭式は通常2+0+2=8。歯式はI1/1, C0/0, P0/0, M3/3=16(愛知県環境調査センター, 2009)。

**【分布の概要】**

日本固有種で、本州、九州、佐渡島、能登島に分布する。県内では、豊根村、豊田市[旧豊田市、小原地域、稲武地域]、設楽町、田原市[赤羽根町、渥美地域]、三好町、幸田町、西尾市、犬山市、名古屋市、知多市、江南市、北名古屋市、愛西市、春日井市、一宮市、稲沢市祖父江町、東浦町(鳥居, 2000)、安城市(小鹿, 2005)で生息記録がある。岡崎市では、1981年のアンケート調査では、「学区でよく見かける獣類」の項目で旧額田町地区の学区のうち、鳥川、大雨河、千万町、形埜、下山で「よく見かける」という項目への回答がある(額田町史編集委員会, 1986)。

**【生息地の環境／生態的特性】**

低地から高山にまで分布し、広葉樹林や針葉樹林にも見られるが、低地の農耕地を含む草原的環境に最も多い(阿部, 2000)。地下性が強く、地表直下にトンネルを掘って生活している。植物食に最も適応したネズミ類で、草本類やその根、根茎などを食べる。繁殖期は北方や高標高地では夏を中心とした1山型であるが、南方では春と秋の2山型で、1回の妊娠で1~9仔、通常3~5仔を産む(金子, 1975)。愛知県内での詳しい生態は不明(愛知県環境調査センター, 2009)。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

大正から昭和の初年にかけては、ハタネズミはハツカネズミとともに県下の平野部を代表する野ネズミであった(青木, 1926)。現在では個体数がきわめて少なくなっており(宮尾ほか, 1984)、これは市街化の進行による生息地の減少が主因と考えられるが、ユーラシア北部のタイガ地域と台湾高地に類縁を持つ北方系の種なので地球温暖化の影響を受けている可能性も考えられる。

**【保全上の留意点】**

牧草地を含む草原、造林地、河川敷・耕地とその周辺の草地がハタネズミの主要な生息地であるが、市街地周辺ではこうした環境が急速に整備され失われつつある。こうした場所での環境整備に際しては格段の配慮が必要であり、地域個体群の絶滅をもたらさないようにしなければならない。

**【特記事項】**

ハタネズミは日本の4つの島にのみ生息する固有種であるが、染色体からみた最近縁種は台湾の高地にのみ生息する固有種のキクチハタネズミ *Microtus kikuchii* とユーラシア大陸北部に分布するツンドラハタネズミ *M. oeconomus* であることが最近の研究で示された(Mekada, et al., 2001)。

**【引用文献】**

阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 青木文一郎, 1926. 名古屋市及其郊外に棲息する鼠類の観察. 動物学雑誌, 38: 341-346.  
 金子之史, 1975. 日本の哺乳類 (12)齧歯類ハタネズミ属. 哺乳類科学, 30: 3-26.  
 Mekada, K., M. Harada, L.K. Lin, K. Koyasu, P.M. Borodin and S.-I. Oda, 2001. Pattern of X-Y chromosome pairing in the Taiwan vole, *Microtus kikuchii*. Genome, 44: 27-31.  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 額田町史編集委員会, 1986. 哺乳類. 額田町史, pp.41-46. 額田町史編集委員会, 額田町.  
 小鹿登美, 2005. 愛知県安城市哺乳類の記録. マンモス特別号, (7): 4-9.  
 鳥居春友, 2000. 哺乳類. 新編東浦町史資料編2(自然), pp.190-200. 愛知県知多郡東浦町, 東浦町.

**【関連文献】**

Iwasa, M.A. 2010. *Microtus montebelli* (Milne-Edwards, 1872). The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.157-158. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.

(執筆 子安和弘・小鹿登美)

哺乳類 007	齧歯 (ネズミ) 目 ネズミ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
<b>カヤネズミ <i>Micromys minutus</i> (Pallas)</b>		

### 【選定理由】

国内では石川・福島県以南の本州、四国、九州とその属島に広く分布し、県内のいくつかの市町村でも生息が認められているが、市街化の進行にともなう生息地の減少で生息環境が急速に失われつつある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II 類
環境省	リスト外

### 【形態】

体重 5.3~14.0g、頭胴長 54.0~78.5mm、尾長 47~91mm、後足長 14~17mm、耳介長 7~12mm、頭骨最大長 13.7~16.9mm (阿部, 2000)。体は非常に小さく、背面の毛色は赤褐色から暗褐色まで変異がある。腹面は白色。尾は長く、先端部の上面は裸出する。頭蓋では吻の短いのが特徴的であり、卵形で大きな脳頭蓋に幅の狭い頬骨弓をもつ。鼓室胞は大型で、切歯孔の後縁は第 1 大臼歯の前縁付近かその前方にある。乳頭式は 2+0+2=8。歯式は I1/1, C0/0, P0/0, M3/3=16 (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【分布の概要】

ユーラシア大陸に広く分布し、国内では石川・福島県以南の本州、四国、九州、隠岐道後、西ノ島、中ノ島、淡路島、豊島、因島、対馬、天草下島、福江島 (金子, 2005; 高田ほか, 2012) などに生息する。県内では、設楽町[旧設楽町, 津具地域]、豊田市[旧豊田市, 稲武地域、小原地域、旭地域、藤岡町、足助地域]、新城市鳳来地域、新城市、豊川市一宮町、豊川市、豊橋市、田原市渥美地域、岡崎市、安城市 (小鹿, 2005)、幸田町、三好町、尾張旭市、名古屋市、北名古屋市西春町、春日井市、知多市、美浜町、南知多町で生息記録がある (愛知県環境調査センター, 2009)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

低地から標高 1,200m 付近までの山地に分布するが、低地の草地に多く、森林内にはみられない (阿部, 2000)。春から秋にかけてイネ科草本やススキのような草本の茎の途中に植物の葉を細切したものを編み上げた球巣をつくり、産子や育子を球巣中でおこなう。1 回に 2~8 仔を産む。冬期は地下の坑道にすむ。草本の茎葉、種子、果実、昆虫などを食べる。野外での寿命は 1 年あまり (白石, 1965)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

岡崎市での記録としては、旧岡崎市域 (伊藤, 1985) での記載と同市域の赤浜町矢作川河川敷での個体採集と球巣の記録 (宮尾ほか, 1984) がある。本種はイネ科草本の草地に生息する特異な生活様式をもっているために、耕作の放棄された休耕地や県下各地に見られるため池周辺の草地に発達していたことが分布の広がりを保証していた (宮尾ほか, 1984)。こうした休耕地や河川敷・ため池周辺での「整備」によってイネ科草本の植生が失われ、生息域が急速に失われつつある (村上・金子, 1997)。

### 【保全上の留意点】

休耕地、河川敷、ため池などの周辺では、特に市街化にともなって整備され、結果的にカヤネズミの生息地が失われることが多い。こうした整備を担当する行政当局は、見た目だけの美しさに固執せず、生物多様性の保全に配慮した環境整備を企画する必要がある。

### 【特記事項】

日本哺乳類学会では種としてのランクが「不能」とされ、生態情報が十分蓄積されていない状況が指摘されている (村上・金子, 1997)。

### 【引用文献】

- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 伊藤安彦, 1985. 岡崎市のほ乳類. 新編岡崎市史自然 14, pp.690-695. 新編岡崎市史編さん委員会, 岡崎.
- 金子之史, 2005. カヤネズミ. 日本の哺乳類[改訂版], pp.134. 東海大学出版会, 秦野市.
- 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
- 村上興正・金子之史, 1997. ネズミ亜目 MYOMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.75-90. 文一総合出版, 東京.
- 小鹿登美, 2005. 愛知県安城市哺乳類の記録. マンモ・ス特別号, (7): 4-9.
- 白石 哲, 1965. 日本の哺乳類 (2)カヤネズミ属. 哺乳類科学, 8: 1-13.
- 高田靖司・植松 康・酒井英一・立石 隆, 2012. 瀬戸内と九州島嶼におけるネズミ類と食虫類の採集と分布. 日本生物地理学会会報, 67: 81-92.

### 【関連文献】

- Iwasa, M.A. 2010. *Micromys minutus* (Pallas, 1771). The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.164-165. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.

(執筆 子安和弘・小鹿登美)

哺乳類 008	トガリ目 (モグラ目) トガリ科	岡崎市 絶滅危惧 I B 類
<b>カワネズミ <i>Chimarrogale platycephalus</i> (Temminck)</b>		

### 【選定理由】

本州と九州に広く分布し、県内でもいくつかの市町村で生息が認められているが、半水生哺乳類である本種は溪流や小河川に依存して生活しており、生物多様性に配慮しない護岸工事や生活排水の流入など本種の生息環境の悪化によって個体群の維持が困難になっていると考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II 類
環境省	地域個体群

### 【形態】

体重 24~56g、頭胴長 94~144mm、尾長 87~113mm、後足長 23.0~27.7mm、耳介長 6.2~11.0mm、頭骨最大長 25.8~28.2mm。水生に適応した大型のトガリネズミで、前肢・後肢の指の間にある剛毛が水中で水かきの役割をはたしている。頭骨の脳頭蓋は扁平で口吻前方に尖っている。歯の咬頭の先端には赤い着色がない。歯式は I3/1, C1/1, P1/1, M3/3=28 とされているが(愛知県環境調査センター, 2009)、前上顎縫合とトガリ類の歯の相同性から I3/1, C0/0, P2/2, M3/3=28 と改訂する考えもある(Abe, 2010)。

### 【分布の概要】

日本固有種で、国内では本州と九州に分布する。四国では後期更新世以降絶滅したと考えられる(子安, 1998)。県内では、豊田市[旧豊田市、稲武地域、旭地域、小原地域、藤岡町、足助地域、下地域]、設楽町、三好町、岡崎市旧額田町域、犬山市(原田, 1996a; b; 子安ほか, 2001; 森部・織田, 2007; 愛知県環境調査センター, 2009)で生息記録がある。岡崎市では、旧額田町域の宮崎(旧宮崎村)で「宮崎の川では各所によく見かける」という記述がある(宮崎村史編集委員会, 1960)。

### 【生息地の環境/生態的特性】

山間部の溪流と丘陵部の小河川に生息する。巧みに水泳・潜水してトビケラの幼虫のような水生昆虫、サワガニ、魚類、カエルなどを捕食する。繁殖期は春と秋で、1回に2~5仔を産む。巣は河畔の土中や石の下につくる。3年以上生息する個体もいる(阿部, 2005)。山間部の養魚場で飼育されている溪流魚をねらって出沒することもある。水中を泳ぐ際には体表を被う毛皮の間に空気の泡を含み、これが光を反射するので「銀の矢」が水中を駆け抜けていくようにみえる。小河川を中心に存在するホームレンジ内では定期的に上流と下流に向かって移動を繰り返しているが、淵への落ち込みが急な箇所では岸に上陸して急流を迂回する性質がある(阿部, 2003)。

### 【現在の生息状況/減少の要因】

現時点でカワネズミが確実に生息する愛知県の河川は、矢作水系(名倉川・神越川・巴川・乙川・男川など)と豊川水系(源流部)の2水系にすぎない(愛知県, 2009)。水生動物の生息に配慮しない護岸工事や河川改修は移動の障壁となって個体群の地域絶滅をもたらし、また生活排水の流入などによる河川の汚濁もカワネズミの絶滅域を拡大することによって個体数を減少させている。

### 【保全上の留意点】

里山に近い山間部での小河川や溪流における河川改修・護岸工事・農薬散布に際してはカワネズミの生息可能性を念頭に置いた施工が必要である。カワネズミそのものに対する知識不足や水生哺乳類としての生態特性から、各河川での生息が知られることなく絶滅する可能性もあるので注意が必要である(愛知県環境調査センター, 2009 参照)。

### 【特記事項】

天明年間(1781~1789)に成立した内藤東甫の『張州雑誌』にカワネズミの図がある。「水野沓掛邊(現在の瀬戸市定光寺町近辺)谷川處々有…」という記述から、最近の記録に乏しい尾張平野丘陵部にも18世紀後半にはカワネズミが少なからず生息していたことがわかる(愛知県, 2009)。

### 【引用文献】

- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-動物編, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 阿部 永, 2003. カワネズミの捕獲, 生息環境および活動. 哺乳類科学, 43 (1): 51-65.
- 阿部 永, 2005. カワネズミ. 日本の哺乳類[改訂版], pp.11. 東海大学出版会, 秦野市.
- Abe, H. 2010. *Chimarrogale platycephala* (Temminck, 1842). The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.16-17. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.
- 原田猪津男, 1996a. ほ乳類. 稲武町史-自然-資料編, pp.377-380. 稲武町, 愛知県北設楽郡稲武町.
- 原田猪津男, 1996b. ほ乳類. 設楽町誌『自然編』『資料編』, pp.585-593. 設楽町, 愛知県北設楽郡設楽町.
- 子安和弘, 1998. 日本産トガリネズミ亜科の自然史. 食虫類の自然史, pp.201-267. 比婆科学教育振興会, 広島県庄原市.
- 子安和弘・小林秀司・大竹 勝, 2001. 愛知県の食虫類と翼手類. マンモス特別号, (3): 19-34.
- 宮崎村史編集委員会, 1960. 野生のけもの. 宮崎村史, pp.514-519. 宮崎村史編集委員会, 額田町.
- 森部純嗣・織田鉄一, 2007. 愛知県北設楽郡設楽町のカワネズミにおける諸事情. マンモス特別号, (9): 6-9.

### 【関連文献】

宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

(執筆者 子安和弘・小鹿登美)



哺乳類 009	齧歯(ネズミ)目 リス科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>ニホンリス <i>Sciurus lis</i> Temminck</b>		

### 【選定理由】

1981年のアンケート調査では、「学区でよく見かける獣類」の項目で旧額田町地区のすべての学区(鳥川、豊富、大雨河、夏山、宮崎、千万町、形埜、下山)で認められており(額田町史編集委員会, 1986)、また1980年代には旧岡崎市域でも生息が確認されていて(伊藤, 1985)比較的観察されやすい動物であった。現在の岡崎市でも生息は認められているものの目撃記録は従来ほどではなく、全国的な減少傾向と一致するものと考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	地域個体群

### 【形態】

体重250~310g、頭胴長160~220mm、尾長130~170mm、後足長48~58mm、耳介長22~31mm、頭骨最大長46.3~55.5mm(石井, 2005など)。エゾリスよりもやや小型。背面は夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色で、腹面は純白。尾の先が白く、冬毛では耳の先にふさ毛が生じる(石井, 2005)。歯式はI1/1, C0/0, P2/1, M3/3=22(阿部, 2000)。

### 【分布の概要】

日本固有種で、本州、四国、九州、淡路島に分布するとされるが、本州の中国以西には少なく、九州では近年の確実な記録がない(石井, 2005; 安田, 2007)。淡路島でも最近の生息記録がない(石井, 2005)。九州と淡路島での絶滅が確実であれば、国内での本種の生息は本州と四国に限られる。岡崎市では旧岡崎市域(伊藤, 1985)と旧額田町域(額田町史編集委員会, 1986)のそれぞれ平野と山間部の森林で生息がみとめられる。

### 【生息地の環境／生態的特性】

岡崎市では平野部から山地にかけての森林がニホンリスの生息地であり、ドングリ、クルミ、マツなどの種子をよく食べる(宮尾ほか, 1984)が、花、芽、果実、キノコ類、昆虫なども少しは食べる(石井, 2005)。低山帯のマツ林を好む。ヒノキ、スギ、カラマツなどの樹上に巣をつくり、樹洞を利用して巣をつくることもある。繁殖期の初夏から夏にかけて1回から2回出産し、産子数は2~6頭で、寿命は約5年である(石井, 2005)。おもに樹上性で昼行性。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

旧額田町地域では、中金町での生息が執筆者らによる聞き込みで示されている(2010年9月12日)。旧岡崎市域欠町の東公園では杉山時雄氏によって目撃されている。野外調査時の生息痕や目撃例の減少は、岡崎市におけるニホンリスの相対的な減少を示していると考えられる。市街地周辺の宅地開発や道路の造成などによって生息に適した森林が分断減少していることと、食物として重要なマツ類やナラ類が枯れ、ナラ枯れの全国的流行が岡崎市にもおよんでいることが考えられる。

### 【保全上の留意点】

ニホンリスの行動圏は10haほどで、雌どうしの行動圏はあまり重複しない(石井, 2005)。したがって、ニホンリスの個体群が安定して維持されるためには、数百ha単位の連続したマツ林・ナラ林を含む森林が連続している必要がある。こうした連続した森林が開発等により分断されることをさけるとともに、孤立した小個体群の生息する森林は、植生の復元やニホンリス等が道路を越えて移動できる人工橋などの設置によって連続する生息域を確保する配慮が必要である。

### 【特記事項】

1980年代以降におけるニホンリスの減少は全国的な傾向であると考えられる。例えば、神奈川県では、1984年、1989年、1994年におこなわれたリス類3種(ニホンリス、ムササビ、タイワンリス)の生息分布調査結果と2001年11月~2002年2月のアンケート調査から、同県における1984年のニホンリス分布メッシュ数が2001年には3分の1に減少したという(園田・田村, 2003)。

### 【引用文献】

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 石井信夫, 2005. ニホンリス. 日本の哺乳類[改訂版], pp.119. 東海大学出版会, 秦野市.  
 伊藤安彦, 1985. 岡崎市のほ乳類. 新編岡崎市史自然14, pp.690-695. 新編岡崎市史編さん委員会, 岡崎.  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 園田陽一・田村典子, 2003. 神奈川県における土地利用とリス類3種(ムササビ, ニホンリス, タイワンリス)の環境選択性. 神奈川県自然環境保全センター自然情報, (2): 13-17.  
 額田町史編集委員会, 1986. 哺乳類. 額田町史, pp.41-46. 額田町史編集委員会, 額田町.  
 安田雅俊, 2007. 絶滅のおそれのある九州のニホンリス, ニホンモモンガ, およびムササビ -過去の生息記録と現状および課題-. 哺乳類科学, 47 (2): 195-206.

### 【関連文献】

- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 子安和弘・小鹿登美)

哺乳類 010	ウサギ目 ウサギ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>ノウサギ <i>Lepus brachyurus</i> Temminck</b>		

### 【選定理由】

1981年のアンケート調査では、「学区でよく見かける獣類」の項目で旧額田町地区のすべての学区（鳥川、豊富、大雨河、夏山、宮崎、千万町、形埜、下山）で認められており（額田町史編集委員会、1986）、また1980年代には旧岡崎市域の北東部でも生息が確認されていて（伊藤、1985）比較的観察されやすい動物であった。現在の岡崎市でも生息は認められているものの従来よりも目撃されることが少なくなり、全国的な減少傾向と一致するものと考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

### 【形態】

体重 1,300～2,500g、頭胴長 430～540mm、尾長 20～50mm、後足長 130～150mm、耳介長 60～80mm、頭骨最大長 79.3～92.5mm（石井、2005 など）。北海道に生息するユキウサギよりも小型。腹面が白色である以外ほぼ全身が茶褐色であるが、耳の先端は黒い。本州の東北部や日本海側の積雪地帯および佐渡のものは、冬になると耳の先端が黒いのを除き全身白色になる（石井、2005）。岡崎市では冬季も白色になる個体はない。歯式は I2/1, C0/0, P3/2, M3/3=28（阿部、2000）。

### 【分布の概要】

日本固有種で、北海道を除く、本州、四国、九州ならびにそれらの属島に分布する（石井、2005）。島嶼部の分布は、佐渡島（亜種サドノウサギは環境省準絶滅危惧）、隠岐諸島、五島列島、天草諸島、下甕島である（Yamada, 2010）。岡崎市では旧岡崎市域の北東部（伊藤、1985）と旧額田町域のそれぞれ平野と山間部の森林やその周辺部で生息がみとめられる（額田町史編集委員会、1986）。

### 【生息地の環境／生態的特性】

岡崎市では平野部から山地にかけての森林とその周辺の平原や河川敷などがノウサギの生息地であり、夏は緑草、冬は樹皮や枝先も食べる（宮尾ほか、1984）。主に夜行性で巣穴は掘らず、春から夏まで3～5回出産する（石井、2005）。国内の平均出産数は南北で異なり、北部では1.86頭（レンジは1～4頭）、南部では1.16頭（レンジは1～3頭）である（Yamada, 2010）。妊娠期間は北部で42～43日、南部では45～48日（Yamada, 2010）で、寿命は4年未満（石井、2005）。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

岡崎市の旧額田町地域では、中金町での生息が執筆者らによる聞き込みで示されている（2010年9月12日）。また、旧岡崎市域池金町にある北山湿地の入り口付近では、判家卓司氏によって写真撮影がなされ、旧岡崎市奥山田町では川田奈穂子氏によってロードキル個体が撮影された（2013年9月24日）。フィールド調査の際の生息痕の減少や目撃例の減少は、岡崎市におけるノウサギの相対的な減少を反映していると考えられる。全国的なノウサギの減少傾向は、拡大造林による皆伐後のスギ・ヒノキ等の植林森林が伐採されずに残り、ノウサギが好む食料が豊富な明るい草地（新規造林地を含む）が減少したことや、テン、キツネ、猛禽類など捕食者の相対的な増加が考えられる。

### 【保全上の留意点】

ノウサギの行動圏は10～30haであり、1晩の平均移動距離は1,176m（レンジは841～1,729m）であるという（Yamada, 2010）。このため、ノウサギの個体群維持のためには比較的広大な生息に適した環境が必要であるとともに、特に分布の周辺域では個体群の孤立化が地域的な絶滅を招きやすい。広域を開発する際には好適な生息環境の維持と連続する生息域を確保する配慮が必要である。

### 【特記事項】

1979年3月には、旧岡崎市域の赤渋町矢作川河川敷でノウサギの糞塊が発見されている（宮尾ほか、1984）。このことは、河川敷の自然環境の適切な保全管理がノウサギの生息に重要であることを示しているほか、分布の連続を保障するための「回廊」としての役割としての河川敷の重要性を示していると言える。

### 【引用文献】

- 阿部 永、2000. 日本産哺乳類頭骨図説、279pp. 北海道大学図書刊行会、札幌。  
 石井信夫、2005. ニホンノウサギ. 日本の哺乳類[改訂版]、pp.151. 東海大学出版会、秦野市。  
 伊藤安彦、1985. 岡崎市のほ乳類. 新編岡崎市史自然 14、pp.690-695. 新編岡崎市史編さん委員会、岡崎。  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一、1984. 哺乳類. 愛知の動物、pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会、名古屋。  
 額田町史編集委員会、1986. 哺乳類. 額田町史、pp.41-46. 額田町史編集委員会、額田町。  
 Yamada, F. 2010. *Lepus brachyurus* Temminck, 1845. The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.208-209. Shoukadoh Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto.

### 【関連文献】

- 愛知県環境調査センター(編)、2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009-動物編、651pp. 愛知県環境部自然環境課、名古屋。  
 宮崎村史編集委員会、1960. 野生のけもの. 宮崎村史、pp.514-519. 宮崎村史編集委員会、額田町。

(執筆者 子安和弘・小鹿登美)

哺乳類 011	齧歯 (ネズミ) 目 リス科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ムササビ <i>Petaurista leucogenys</i> (Temminck)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

愛知県内では豊根村富山地域、豊根村、設楽町、東栄町、豊田市（旧豊田市、稲武地域、下山地域、足助地域、藤岡町、小原地域、旭地域）、新城市（鳳来地域、作手地域）、豊川市、豊橋市、瀬戸市、犬山市で分布が認められ、愛知県内の遺跡からの遺存骨出土記録として、田原市郷中の伊川津貝塚（縄文時代後～晩期）のものがある（山崎・織田, 2005; 愛知県環境調査センター, 2009）。岡崎市では旧額田町域での記録がある（宮尾ほか, 1984; 愛知県環境調査センター, 2009）。縄文時代の渥美半島にムササビが生息していたことは上記の伊川津貝塚以外にも、同じ田原市吉胡町の保見貝塚での平成 21 年度調査（2009 年 8 月）での遺存骨出土でも明らかである（吉胡貝塚史跡公園, 「シェルマよしご平成 21 年度文化財情報：保見貝塚調査の概要」より）。渥美半島での絶滅などをふまえ、岡崎市では準絶滅危惧に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【種の概要】**

頭胴長 410～490mm、尾長 170～233mm、後足長 75～98mm、耳介長 31.5～45.0mm、頭骨最大長 78.9～91.8mm（阿部, 2000）。尾率は 40%以上となるのが普通。性的二型があり、雄は雌より大きい。毛色はあざやかな黄色から褐色のもので変異に富み、黄色のものはキテン、褐色のものはステンと一般に呼ばれている。頭蓋では比較的吻が長く幅が狭い。雄では脳頭蓋の正中部に明らかな矢状稜が認められるが、雌では稜線にならない。歯式は I3/3,C1/1,P4/4,M1/2=38（以上、愛知県環境調査センター, 2009 年より）。低地から亜高山帯までの山地帯森林に生息し、夜行性。樹上性で、樹洞もよく利用するほか、樹上につくった球状の巣を利用する（阿部, 2000）。樹木の葉、芽、花、果実、樹皮、種子などを食べる（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【引用文献】**

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-325. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 山崎 健・織田 銃一, 2005. 愛知県における遺跡出土の食虫類・齧歯類(縄文時代～弥生時代). マンモ・ス特別号, (7): 10-16.

**【関連文献】**

- 石井信夫, 2005. ムササビ. 阿部 永監修, 日本の哺乳類, 改訂版, p.122. 東海大学出版会, 神奈川県秦野市.  
 (執筆者 子安和弘)

哺乳類 012	食肉 (ネコ目) 目 イタチ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>テン <i>Martes melampus</i> (Wagner)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

愛知県内では豊根村（旧豊根村、富山地域）、設楽町（旧設楽町、津具地域）、東栄町、豊田市（旧豊田市、稲武地域、旭地域、小原地域、足助地域、下山地域）、新城市鳳来地域、豊川市（旧豊川市、一宮地域）、幸田町、瀬戸市、尾張旭市で分布が認められ（愛知県環境調査センター, 2009）、岡崎市では旧額田町くらがり溪谷での記録がある（宮尾ほか, 1984; 愛知県環境調査センター, 2009）。愛知県内では知多半島・渥美半島および平野部で絶滅したと考えられており（愛知県環境調査センター, 2009）、岡崎市でもエサとなるノウサギなどの減少にともない、個体数や分布域の減少する可能性があるため準絶滅危惧に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【種の概要】**

頭胴長 410～490mm、尾長 170～233mm、後足長 75～98mm、耳介長 31.5～45.0mm、頭骨最大長 78.9～91.8mm（阿部, 2000）。尾率は 40%以上となるのが普通。性的二型があり、雄は雌より大きい。毛色はあざやかな黄色から褐色のもので変異に富み、黄色のものはキテン、褐色のものはステンと一般に呼ばれている。頭蓋では比較的吻が長く幅が狭い。雄では脳頭蓋の正中部に明らかな矢状稜が認められるが、雌では稜線にならない。歯式は I3/3,C1/1,P4/4,M1/2=38（以上、愛知県環境調査センター, 2009 年より）。森林に生息し、木登りが得意で、通常は樹洞に営巣するが、人家の天井などを利用することもある（阿部, 2000）。食物はネズミなどの小哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、果実類などである。特に秋にはサルナシやアケビなどの漿果を大量に食べる（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【引用文献】**

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編-, 651pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-325. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

**【関連文献】**

- 米田正明, 2005. テン. 阿部 永監修, 日本の哺乳類, 改訂版, p.80. 東海大学出版会, 神奈川県秦野市.  
 (執筆者 子安和弘)

哺乳類 013	齧歯 (ネズミ) 目 リス科	岡崎市 情報不足
<b>モモンガ</b> <i>Pteromys momonga</i> Temminck		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

愛知県内では北設楽郡豊根村、設楽町 (旧設楽町、津具地域)、東栄町、豊橋市、豊田市 (稲武地域、旭地域、足助地域) が本種の確実な生息記録である (愛知県環境調査センター, 2009)。岡崎市に隣接する地域では、豊田市稲武地域の稲橋 (1993 年: 原田, 1996a)、設楽町の裏谷 (原生林)・岩古谷山・神田・八橋・田内 (1984~1994 年: 原田, 1996b) などの記録がある (愛知県環境調査センター, 2009)。モモンガは夜行性であり、ムササビと誤認される可能性や現在の分布状況が不明瞭であることなどから、情報不足に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B 類
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

頭胴長 139~195mm、尾長 95~140mm、後足長 31.5~39.0mm、耳介長 14.5~25.0mm、頭骨最大長 38.3~42.2mm (阿部, 2000)。ムササビに似ているがはるかに小さい。夜行性で眼が大きい。前肢の手根部から後肢の膝にかけて飛膜を持ち、滑空することができる。切歯孔は短く、上顎頰歯列長は通常 7mm 以上。短くねじれた陰茎骨をもつ。乳頭式は 2+2+1=10 で、近縁種のタイリクモモンガより腹部の乳頭が 1 対多い。歯式は I1/1, C0/0, P2/1, M3/3=22 (以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。夜行性、樹上性で、樹上に球状の巣をつくるほか、樹洞もよく利用する (阿部, 2000)。生息する樹洞では、穴の真下に直径 5mm 程度の黒い糞が落ちている。鳥の巣箱にもはいる。樹木の葉、芽、樹皮、種子、果実、キノコなどを食べる。春から秋にかけて 1~2 回繁殖し、1 回に 2~6 仔を産む。ムササビ同様、皮膜を使った滑空で樹間を移動する (愛知県環境調査センター, 2009)。

**【 引用文献 】**

阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター (編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, 651pp.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-325. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

**【 関連文献 】**

石井信夫, 2005. ニホンモモンガ. 阿部 永監修, 日本の哺乳類, 改訂版, p.123. 東海大学出版会, 神奈川県秦野市.  
 (執筆者 子安和弘)

哺乳類 014	トガリ (モグラ) 目 モグラ科	岡崎市 情報不足
<b>アズマモグラ</b> <i>Mogera imaizumii</i> (Kuroda)		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

愛知県内では豊根村、豊田市、設楽町 (原田, 1996; 川田・姫田, 2001)、新城市鳳来地域、豊川市、犬山市、瀬戸市、美浜町で生息が確認されている (愛知県環境調査センター, 2009)。岡崎市では、隣接する豊田市旧豊田市域で確認されていること (愛知県環境調査センター, 2009) 以外にも、岡崎市内に設置されたフクロウの巣箱からヤマネとともに発見された「モグラ科の一種」 (真野・杉山, 2008) にアズマモグラが含まれている可能性があり、今後の調査による生息情報の増加にむけて情報不足に選定した。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II 類
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

体重 48.0~127.0g、頭胴長 121.0~159.0mm、尾長 14.0~22.0mm、後足長 15.5~22.5mm、頭骨最大長 31.5~38.5mm (阿部, 2000)。小型~中型のモグラであるが、体の大きさの地理的変異が著しい。愛知県内のアズマモグラは小型である。頭骨は吻部が比較的狭く、眼窩部の膨らみが大きい。上顎の切歯列は V 字型か U 字型をしており、円弧状の配列を示すコウベモグラと異なる。歯式は I3/2, C1/1, P4/4, M3/3=42、脊柱式は C7+T14~15+L4~5+S6+Cd11~12=44 (以上、愛知県環境調査センター, 2009 より)。愛知県内では、山地ないし丘陵地の土壌の発達の悪い場所に生息しているが (子安ほか, 2001)、山地のゴルフ場内でコウベモグラと微妙なすみ分けをしている場所もある (川田・姫田, 2001)。餌としてはミミズ類と昆虫類が多い。寿命は 3 年程度で、春に主要な繁殖期があり 1 回に 2~6 仔を産む (愛知県環境調査センター, 2009)。

**【 引用文献 】**

阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
 愛知県環境調査センター (編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, 651pp.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 子安和弘・小林秀司・大竹 勝, 2001. 愛知県の食虫類と翼手類. マンモ・ス特別号, (3): 19-34.  
 川田 伸一郎・姫田 始, 2001. 愛知県設楽町東納庫カトリック内でのモグラ 2 種の分布調査. マンモ・ス特別号, (3): 49-52.  
 真野 徹・杉山時雄, 2008. フクロウの巣箱から確認された動物の骨格. 西三河野鳥研究年報, 11: 1-6.

**【 関連文献 】**

宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-325. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 (執筆者 子安和弘)